

農作物技術情報 第2号の要約

令和2年 4月23日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

| 作目 | 技術の要約 |
|-----|---|
| 水稲 | <p>生育状況：播種作業は終盤を迎えている。苗の生育は概ね順調である。</p> <p>技術対策</p> <p>育苗管理：こまめな温度・水管理に努める。特に低温時の苗立枯れ、高温時の細菌病発生に注意。イネばか苗病が発生した場合には、粃ごと苗を抜き取り、本田に持ち込まないように努める。</p> <p>田植え：天気の良い日を選んで田植えを行う。適正栽植密度・植付本数・植付深さを守る。好天時は生育を促進するため浅水とし、強風・低温時は苗を保護するため深水とする。</p> <p>雑草防除：除草剤は雑草の種類や使用時期に応じて選択する。散布時期や方法を厳守する。</p> <p>葉いもち予防：稲わら・粃がらは育苗施設付近に置かない。取置苗は土中埋没等で直ちに処分する。</p> |
| 畑作物 | <p>生育状況：小麦の生育は、少雪の影響で平年よりも一週間程度進んでおり、生育量も大きい。</p> <p>技術対策</p> <p>小麦 追肥作業：減数分裂期以降の後期追肥は、生育量や生育ステージを確認して適切に実施する。</p> <p>赤かび病防除：赤かび病の防除は、開花始期～盛期に必ず実施する。</p> |
| 野菜 | <p>生育状況：果菜類は育苗及び定植が行われ、順調な生育。露地葉菜類はレタスやねぎの定植が行われ、一部で圃場準備の遅れが見られたものの、概ね例年並みの実施。</p> <p>技術対策</p> <p>施設果菜：天候に応じて朝晩は保温資材・補助暖房を活用して保温を行うほか、日中は高温になりすぎないように換気に努める。灌水の必要がある場合、日中の気温が高いうちに行い適湿を保つ。</p> <p>露地きゅうり：圃場の土壌 pH を適正にするとともに、排水対策などの圃場準備を進める。</p> <p>露地葉菜類：定植後はべたがけ資材で植え傷みや凍霜害を回避し、適切な時期に除去する。</p> <p>雨よけほうれんそう：ハウレンソウケナゴコナダニの防除対策を徹底する。</p> |
| 花き | <p>生育状況：露地りんどうは、暖冬・少雪の影響により、生育は平年より早まっている。小ぎくも、暖冬の影響により親株の生育が早まり、挿し穂が確保され、挿し芽作業は順調に行われる見通しである。</p> <p>技術対策</p> <p>りんどう：株仕立て等の作業を適期に進めるとともに、圃場が乾燥する場合はかん水を行う。</p> <p>小ぎく：育苗、定植作業を計画的に進める。</p> |
| 果樹 | <p>生育状況：りんごの生育ステージは、蕾が露出する時期となっており、平年より10日程度早い生育となっている。</p> <p>技術対策：現在、凍霜害に弱い生育ステージとなっているので、毎日の気象情報に注意し、園地に霜溜まりを作らない、燃焼法の準備する等、被害軽減対策の徹底を図る。</p> <p>りんご：結実確保のために人工授粉の徹底と、大玉生産及び隔年結果防止を図るため、摘花剤・摘果剤を積極的に利用しながら、早期の適正着果を図る。</p> |
| 畜産 | <p>技術対策</p> <p>飼料用とうもろこし：品種選定と基本技術を再確認する。適切な栽植密度で播種を行う。また、収量確保には初期生育が重要なため、播種床の形成、雑草・害虫の防除を確実に行う。</p> |

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <https://i-agri.net>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○農作業安全：事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は令和2年5月28日発行の予定です